

♪ 無料通信アプリ「LINE」による相談の試行について ♪

子どもにとっての新たな相談方法の一つとして、無料通信アプリ「LINE」による相談を、令和元年度は夏期と冬期の2回、市内の中高生に周知して、試行実施しました。子どもアシストセンターは、スマートフォンの所持やSNSの利用を推奨するものではありませんが、子どもに浸透が見られる通信手段を取り入れるなど時代にあわせて、子どもが気軽に相談しやすい体制作りを進めていきます。



～このようなことでお悩みではありませんか？～

※プライバシーに配慮し事例は加工して紹介しています



息子が宿題をやらないため、よくないと思いつつどうしても怒ってしまふ。息子は反発するばかりで、これ以上どのように声をかけていいかわからない。



面談にお誘いし、子ども本人と母親からそれぞれ話を聴きました。母親も本人のことを思って口を出すのですが、そのプレッシャーが本人を追い詰めていることがうかがえました。一方、本人は優しい母親に甘えたい気持ちがあり、それを素直に表現できないこともうかがえました。親子だけではどうしても歯車が噛み合わないところを、相談員が二人の間に入ってお互いの気持ちを伝達しました。母親と本人が相手の気持ちを尊重して認め合うことが大切であると助言しました。



娘がクラスになじめないとして学校へ行きたくないと話している。



面談にお誘いし、父親と子ども本人から話を聞きました。本人の話を聴く必要があると感じ、「二人でお話しましょう」と提案しました。相談員と二人だけの場で本人が語ってくれたことは、「私が学校に行けないのは、嫌がらせだけが理由ではない。私は少し時間を与えてほしいが父親は待ってくれない。毎日毎日、『学校に行かないのか。』と言われることが辛くて仕方がない。」という内容でした。本人から「父親に本当の気持ちを伝えてほしい」と要望を受けて、本人の語ってくれたことを話し「焦らずに待ってあげてほしい」と伝えました。と同時に、親としての辛さや焦りも受け止め、これまで懸命に本人を支えてこられたことに敬意を表しました。お父さんは「自分が娘を追いつめていたのですね」と話され、「ごめんね。焦っていたね。」と語りかけておられました。面談後、本人がホッとした表情を見せたのが印象的でした。

相談だけで解決に至らない場合などは、必要に応じて、学校などの関係機関に対して事実確認を行ったり、子どもの気持ちを伝えたりするなど「調整活動」を行うこともできます。問題解決に向けて一緒に考えます。

お子さんのために何ができるか、一緒に考えていきたいと思っています。安心してご相談ください。